

さい 議会だより



電源開発株式会社「中央給電指令所」を見学

(関連記事：13 ページ)

9 月定例会の主な内容

- ☆ 平成 28 年度の各会計決算を認定 2 ページ
- ☆ 防災避難道路に関する政策提言 5 ページ
- ☆ 夜間議会（一般質問）を開催 6 ～ 8 ページ
- ☆ お元気ですか「いつも笑顔で」 14 ページ

平成29年第3回定例会は、9月5日から11日までの7日間の会期で行われました。村長から報告2件・認定6件・補正予算案3件・条例案2件・同意2件の計15件、議員から意見書案1件が提出され、それぞれ原案どおり決しました。

平成28年度の決算状況

会計	歳入総額	歳出総額	歳入歳出差引額		
				うち基金へ積立てた額	
一般	27億 195万円	26億 252万円	9943万円	3012万円	
特別会計	簡易水道事業	7504万円	7504万円	0円	0円
	下水道事業	1億 8666万円	1億 8666万円	0円	0円
	国民健康保険	4億 3909万円	4億 3909万円	0円	0円
	介護保険	2億 7030万円	2億 6619万円	412万円	206万円
	後期高齢者医療	2294万円	2294万円	0円	0円
合計	36億 9602万円	35億 9245万円	1億 356万円	3219万円	
平成27年度決算	43億 5763万円	42億 7361万円	8402万円	3668万円	

※単位未満の金額を省略して表記しています。ご了承ください。



健康づくり事業で医療費抑制を目指している
(1月16日:ヘルスアップ in 佐井 ミニ運動会)

赤字分を一般会計から繰入れ

提出議案に対する総括質疑

国民健康保険特別会計

竹内典和議員

国民健康保険特別会計に赤字が見込まれ、一般会計から繰入れを行っている。過去には、村民の不公平感から繰入れをしなかったが、今後も赤字が見込まれる場合、一般会計からの繰入れを行うのか。

被保険者の負担を考慮した

村長

被保険者の経済的な理由を考慮し、税率改正をすべき時期にしてこなかったため、赤字が見込まれた。国民健康保険制度は、

税収だけの会計維持は困難

参事・住民福祉課長

市町村財政の安定のため、平成30年度から国民健康保険制度が改正されるが、非開示の資料によると、それに伴って税率が約20パーセント増える見込みもある。被保険者数が減少している今、税収だけで会計を維持するのは困難になってきている。

平成28年度 決算審査報告

安心・安全に暮らせる快適な村づくりを

8月7日から9日まで実施した平成28年度決算監査の結果を、奥本紀代表監査委員が報告しました。

歳入では、財政の基本を成す村税収入について、収納事務をさらに充実させ、滞納の解消、新規の滞納者を出さないことを念頭に、納付督促、差し押さえ等の行政処分を強化し、収納率の向上に努力すること。特に国民健康保険では、一般会計からの繰入金が増えることにもつながるため、収納率を上げながら、併せて村民の健康増進を図ること。また、奨学資金や保育料、貸付金についても、固定化されている収入未済額の減少に努めていただきたい。



奥本紀代表監査委員

歳出では、第4次長期総合計画の着実な推進を図るため、保健・医療・福祉対策、漁業をはじめとする産業振興対策、まち・ひと・しごと創生佐井村地域創生総合戦略に基づき、小さくて

もキラリと光る村の実現を目指し、集中して取り組まなければならない施策が山積しており、税収が伸び悩む中でますます厳しい状況が予想される。したがって、今後ともより一層経費の節減に努め、行財政運営の一層の効率化と最少で最大の効果をあげるといふ財政の基本原則を確認し、住民が安心、安全に暮らせる快適な村づくりに努めること。また、物品の管理体制の見直しも検討し、管理に万全を期すよう要望する。

審議した主な議案

健全化判断比率について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づく報告。実質公債費比率は10・4パーセントとなっている。

資金不足比率について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づく報告。簡易水道事業・下水道事業特別会計とも収支均衡を図っており、資金不足は生じていない。

佐井村立学校設置条例の一部を改正する条例

平成31年3月31日をもって福浦小学校及び福浦中学校を閉校するための条例改正。

補正予算の主な内容

平成29年度会計		補正前	補正額	計
一般会計		25億5068万6千円	1865万4千円	25億6934万0千円
				・離島航路運行欠損金補助(シイライン補助金) 988万2千円
				・臨時福祉給付金返還金 390万9千円
				・水産物供給基盤機能保全事業(不採択による) △3198万7千円
			・村道大佐井浜町支線拡幅事業 2701万8千円 など	
特別会計	国民健康保険	4億3738万9千円	△1510万7千円	4億2228万2千円
				・一般被保険者療養給付費 △1500万3千円 など
特別会計	介護保険	2億7973万9千円	997万8千円	2億8971万7千円
				・平成28年度実績に伴う返還金 986万8千円 など

公共施設の指定管理者制度 施設の有効活用で地域振興を

竹内典和委員

アルサス内のテナントの営業時間や冬季休業に関する要望が、以前にも観光客や村民から寄せられていたが、いまだに改善されていない。

状況を整理する

村長

アルサスは指定管理者により管理・運営がなされているが、テナント経営者は、あくまでも村との契約であると認識しているようだ。状況を整理し、対応したい。

海産物を提供する仕組みづくりを

竹内典和委員

観光客からは、せっかく佐井村に来たのに新鮮な海産物を食べる場所がないとの苦情がある。

食による地域振興のため、佐井村特有の新鮮な海産物を飲食店に提供する仕組みを、村が主導し

構築できないか。

課題解消に努める

村長

現在「アルサス周辺賑わい空間創出事業」を展開し、課題解消に努めている。

海産物の安定供給は、漁協の既存施設の利用も含め、関係者と協議する。

観光による地域振興を図れ

竹内典和委員

森林体験館の指定管理者が今年度から変更し



森林体験館を視察（6月16日）

なったが、自主事業等があまり行われていない。施設を有効に活用し、観光による地域振興を図るべき。

全ての施設を再度確認する

村長

公の施設を効率的に運営し、地域振興に結び付けていくのが、事業導入の目的。すべての施設の状況を再度確認する。

川畑委員

村道大佐井浜町支線の拡幅に関する経費が計上されている。今後の工事の計画は。

大佐井浜町支線 工事の計画は

年度内の完成を目指す
産業建設課長

補正予算可決後、業務委託・工事を発注し、年度内の完成を目指す。拡幅に伴う電柱の移設等も、今後協議していく。



アルサスへ通じる道路は乗用車1台分ほどの道幅しかない

政策提言

佐井村地域防災計画
防災避難道路を明確にせよ

現在、隣接する大間町において、電源開発株式会社（MOX燃料を全炉心に装荷できる大間原子力発電所を建設中）が世界初となるMOX燃料を全炉心に装荷できる大間原子力発電所を建設中です。東日本大震災後に本体工事が中断され、現在も原子力規制委員会による新規規制基準の適合性審査の審査中のため、本格工事再開の目途が立っておらず、運転開始の時期は未定となっております。

佐井村地域防災計画の風水害・地震編は、佐井村防災会議において平成14年に修正版が策定されて以来、すでに15年が経過し、現在に至っています。この間、2011年3月11日には東日本大震災が発生しており、それに伴う東京電力株式会社の福島第一原子力発電所

事故が発生したことは、記憶に新しいところです。村議会では、これまで議会改革特別委員会などにおいて、大規模複合災害における防災避難道路に関して議論してきました。この度の村の防災計画見直しに合わせ、より安全・安心なむらづくりを進めるためにも、これまで村内で発生した大規模災害における避難等における課題に対し、村がすべきことを議会として政策提言します。

必要に応じ避難所に収容し、人命保護と避難者の援護を図るものとする、とされています。車両での避難を考慮すると、村内の国道、県道、村道などの防災避難道路としての課題が挙げられます。中でも全地区において幹線道路として機能する国道338号、大佐井地区の県道川内佐井線、古佐井地区の県道葉研佐井線は、狭隘（せうがい）なうえに急カーブが多く、落石等の危険箇所が多くあります。また、各地区の村道も同様となっています。

防災計画の中で、風水害、地震、津波災害が発生し、また発生する恐れがある場合において、災害から住民を保護するため警戒区域等を設定する、危険区域内の住民を適切に安全地域に避難させ、

これらことから、今後の佐井村地域防災計画の目的達成のため、村の施策に反映されるよう望みます。

提言した3つの事項

【政策提言】

特定の問題に対し、政策の形成や変容を促すことを目的とした活動のこと。佐井村議会では、総務産業常任委員会や議会改革特別委員会にて議論を重ね、今回初めて政策提言を行いました。

平成29年度中に策定する佐井村地域防災計画の風水害・地震編及び、今後策定が想定される佐井村地域防災計画の原子力編において、広域防災避難道路として、村の幹線道路である国道338号、県道川内佐井線、県道葉研佐井線の3路線を明確に認定すること。

幹線道路に接続する村道についても、防災避難道路として認定すること。

防災計画において防災避難道路として認定することによって、今後継続的に国道、県道の整備促進について、関係機関に強く働き掛けること。

北朝鮮ミサイル発射実験への備え 住民の安全を守れ

村長 — 関係機関と協議する



竹内典和議員

竹内典和議員
毎年防災訓練が行われているが、マンネリ化していると感じる。複合的な災害に、よりの確に対応できる訓練をすべきではないか。

避難訓練では地震と津波を想定

村長

防災訓練では例年、大規模地震と津波を想定し、一時避難を重視している。今後、地区・町内会、消防団の協力を得て、新たな訓練を実施したい。

北朝鮮のミサイル被害を想定すべき

竹内典和議員

北朝鮮がミサイルの発射実験を行っているため、最悪の場合を想定しなければならぬ。また、近くに大間原発があるため、避難施設、避難道、シェルター等の備えも必要ではないか。

国の行動計画を周知する

村長

国が示した行動計画を周知する。また、シェルター等の避難施設については、これから協議する。

現時点での対応は

竹内典和議員

現に非常事態が起きている。県や国と協議すると言うが、現時点でどう対応するのか。



自衛隊車両による移送訓練
(9月24日:矢越地区)

「物陰に隠れる」程度の指導のみ

村長

今は、危険を感じたら物陰に隠れるくらいの指導しかできない。

シェルターは早急に対応すべき

竹内典和議員

シェルターに関しては、以前から問題提起してきた。早急に対応すべき。

県等と協議する

村長

県等と協議し、対応を進めていく。

村内の小規模事業者への支援 住民の不安解消を

村長 — 対応策を検討する

竹内典和議員

経済産業省は、地域に必要な準インフラ関連企業を支援すると発表した。村内の小規模事業者に同様の支援ができないか。

支援の効果はあまり出ていない

竹内典和議員

それらの支援は、あまり効果が出ていない。村内事業者が減っていくと、住民に不便が生じ、不安が募る。

限定的な支援しかしていない

村長

金融機関の貸付制度の支援、商工会へのプレミアム商品券の補助を行っている。現在は、これらの支援しかしていない。

経済産業省の指針を参考に

村長

経済産業省の指針を参考に、対応を検討する。

2017 佐井村共通商品券

1,000円券 11,000円分を11枚
10,000円分を10枚

7月10日(月)販売開始

佐井村商工会 TEL. 38-2270

1人5セットまで購入できる
佐井村共通商品券

耕作放棄地の有効活用 農地転用で雇用を創出せよ

村長 — 法律に基づき検討する

竹内典和議員

後継者不足や高齢化に伴う耕作放棄により、遊休農地が増えている。こうした農地を活用し、地域振興を図ることができないか。

農地の貸し出し、
借り受けを実施

村長

現在、農地中間管理機構による農地の貸し出し、借り受けを実施している。空き家対策も含め、情報発信していきたい。

積極的な
農地転用を

竹内典和議員

政府は雇用創出を目的に、サービス業や観光、商業施設等の産業へ、農地転用の規制を緩和している。村でも積極的に取り組むべきではないか。

実施可能なものを
模索する

村長

法律改正により、条件付きで規制が緩和されている。法律に基づき、実施可能なものを模索していく。

遊休農地は
活用すべき

竹内典和議員

転用が可能な遊休農地は、積極的に活用した方が、農地保有者にも村にとっても得策と考える。

計画を策定し
有効活用を図る

村長

計画を策定し、条件を満たす農地の有効活用を図りたい。

※見解の相違により十分な議論がなされなかったため、議長が改めて結論を求めることを宣言し、閉会。

9月8日の全員協議会で議論しました。



収穫期を迎えた水田（中道地区）
周辺には休耕田が目立つ

夜間議会を開催

9月定例会1日目、9月5日（火）午後6時から夜間議会を開催し、4件の追跡質問と2議員による一般質問を行いました。

佐井村地区連合会（大石輝彦会長）のみなさんを初め、23人の住民の方々に傍聴していただきました。

みなさんの議会傍聴をお待ちしています。





川畑勲夫議員

ドローン（無人飛行機）活用 村のPRに導入せよ

村長 — 有効活用を図る

川畑議員

災害救助などあらゆる分野でドローンの活用が進んでいる。

村内の景勝地は、ドローンを使った撮影をすることで、より魅力的な映像が撮れるのではないかとそれをホームページやYouTubeに投稿し、テレビや映画関係者にPRしてほしい。

仏ヶ浦の撮影を業者が発注

村長

昨年、仏ヶ浦でテレビドラマが撮影されている。新たな誘客が見込まれるため、8月にドローンを使用した仏ヶ浦の動画撮影を業者に発注し、ホームページに掲載する予定。

また、下北ジオパーク推進協議会でも管内ジオサイトの空撮計画があるため、それらを活用し、PRに努めていく。

ニホンザルの状況調査への活用は

川畑議員

ニホンザルの状況調査に活用し、目視調査と併用すれば、より正確に把握できるのではないかと。活用は非常に困難

活用は非常に困難

村長

川畑議員

ニホンザルが生息する山林内でのドローンの活用は非常に困難だが、活用事例を参考に、有害鳥獣駆除に活用できないか検討する。

熊による杉の食害調査は

川畑議員

熊による杉の食害は、村内の至る所で起きている。目視で確認できない箇所を、ドローンで調査してほしいか。

被害箇所の特定が難しい

村長

上空から撮影し、被害箇所を特定することは難しいと思われる。

ドローン導入で農作物の被害防止

川畑議員

下北管内定住自立圏形成協定に、有害鳥獣等被害防止対策が明記されている。協議の場でドローンの導入について検討してほしい。

提案していく

村長

機会あるごとに提案し、有効活用を図りたい。

再任

教育委員会 委員

岡本 良夫 さん

佐井村教育委員会委員 岡本良夫氏の任期が、平成29年10月27日をもって満了することから、同氏を再任することに、全会一致で同意しました。



岡本 良夫さん (大佐井)

再任

人権擁護委員の候補者

佐々木寛昭 さん

人権擁護委員 佐々木寛昭氏の任期が、平成29年12月31日で満了することから、同氏を候補者として推薦することに、全会一致で同意しました。



佐々木寛昭さん (古佐井)



主に群れで行動するニホンザル

「全国森林環境税の創設に関する意見書採択」に関する陳情

採択

【陳情者】 全国森林環境税創設促進議員連盟 会長 板垣一徳

【審査結果】 採 択

【付託委員会】 総務産業常任委員会

【陳情の趣旨】 平成 29 年度税制改正大綱において「森林環境税（仮称）の創設」に関し、平成 30 年度税制改正において結論を得る、と明記されたことから、森林・林業・山村対策の抜本的強化を図るための「全国森林環境税」の早期導入を強く求める。

【採択の理由】 都市、地方を通じて国民に広く負担を求めることを基本とする仮称全国森林環境税の創設に関し、森林、林業、山村対策の抜本的強化を図るためにも早期導入を強く求めるべきものであり、実現することが必要であるため。

採択された意見書

内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣等へ提出しました

森林環境税とは？

税制改正大綱において「市町村が主体となって実施する森林整備等の具体的な仕組みについて、総務省と林野庁が連携しながら意見集約をするとともに、平成30年度税制改正において結論を得る」とされています。

森林吸収源対策

所有者等による自発的な間伐等が見込めない森林の整備等に関する市町村の役割を明確にする。

①市町村から所有者に対する間伐への取組要請などの働きかけの強化

②所有者の権利行使の制限等の一定の要件の下で、所有者負担を軽減した形で市町村自らの間伐等を実施

③要間伐森林制度を拡充し、所有者が不明の場合等においても市町村が間伐を代行

④寄付の受け入れによる公的な管理の強化
⑤地域における民間の林業技術者の活用等による市町村の体制支援

木材需要の拡大

①耐火部材等の開発、普及による建築物や非住宅建築物への利用拡大。
②木質バイオマスエネルギー利用への利用を拡大。
③丸太中心から、より付加価値の高い木材製品への転換等。

高知県佐川町

町の面積1万80ヘクタールに対し、約73パーセントの7382ヘクタールが森林。

地域おこし協力隊を募集し、林業技術を習得させる。自伐型の林業研修をNPOに委託して実施するなど、担い手を育成

西目屋村

平成29年10月3日、国の「バイオマス産業都市」に選定された。昨年度の平川市に続いて、県内では2例目。

村の面積の9割を占める森林資源を活用し、木質バイオマスの利活用に関する事業計画を策定。薪ボイラーを導入し、公共温浴施設運営のほか、道路の融雪も行う予定。



木質ボイラーを見学（新郷温泉館）

◆ 追跡質問では、過去に質問した件がその後どうなったのか経過を問います ◆

三上剛太郎生誕 150 年を記念した事業について (平成 28 年 9 月定例会)

記念事業の計画は

川畑議員

三上剛太郎生誕 150 年記念事業について、実行委員会は組織されたのか。

実行委員会を組織

教育長

「三上剛太郎生誕 150 年祭実行委員会」を組織し、7 月と 8 月に会議を開催した。

記念事業の計画は

川畑議員

記念事業の計画は。

今年度は小学生の劇を上演

教育長

今年度のプレイベント、赤十字の里づくり推進大会では、佐井小学校児童による三上剛太郎の劇を上演する。

また、「三上剛太郎物語」をモチーフにした壁画制作については、検討作業

に入っている。

漁港内の壁画は

川畑議員

佐井漁港内の現在の壁画は、写真等で記録するのか。

写真で記録する

教育長

上書きされる予定の壁画は、写真で残す予定。

標語の募集事業は

川畑議員

今年度、標語の募集事業は実施しているか。

平成 31 年度まで実施する予定

教育長

平成 31 年度まで実施する予定。今年度は児童生徒のほか、一般の方も対象とし、募集を行なった。

防災航路としての考えは

ポーラスターの位置づけ (平成 28 年 9 月定例会)

宮川議員

牛滝と福浦地区での説明会は、今年の 2 月以降、再度開催されたのか。

その後、説明会は開催されていない

村長

開催されていない。

話し合いはされたか

宮川議員

県に防災航路として位置付けてもらうよう、村、むつ市、シイラインによる話し合いはされたか。

防災計画整備後に要望すべき

村長

村の防災計画に掲載し

地区住民の移動手段の確保は

宮川議員

仮に航路が維持できなくなった場合、牛滝・福浦地区住民の移動手段を確保する考えは。

整備する

村長

航路廃止に向けた動きが出た場合は、当然整備しなければならない。航路の存続について、判断しなければならぬ時期が迫っていると感じている。



出航を待つポーラスター (青森港)

候補地の決定は

オフサイトセンター誘致(平成28年3月定例会)

宮川議員

建設候補地に関し、今年3月までに結論を出すことになっていたが、いまだに何の動きもない。

政令の公布を待つ

村長

大間原子力発電所の建設先送り、県の担当職員の人事異動等のため、対応を保留していた。6月15日、新たに担当となった県職員が現地視察で佐井村を訪れたが、国の方針に変更もあるので、政令が公布されるまで待つほしいと言われた。

先に行動しては

宮川議員

待つだけではなく、先に行動してはどうか。

時期尚早である

参事・総合戦略長

県の原子力安全対策課に相談したが、国の方針が固まらないうちに県に申し入れをするのは、時期尚早とのことだった。

事務レベルで常に情報交換をし、然るべき時には素早く対応できるようにしたい。



建設候補地として選定した農地(黒岩地区)

給付型奨学金について(平成28年12月定例会)

制度の目的は「人づくり」

竹内典和議員

村では、今年度から画期的な「給付型奨学金」を導入しているが、状況はどうなっているか。

12月から募集する

教育長

従来の貸与型奨学生との募集に合わせ、12月から周知を予定している。

遅いのではないか

竹内典和議員

2学期が始まった今、進学先や就職先の最終的な検討に入る。12月では遅いのではないか。

内規等を調整中

教育長

現在、内規等の調整を行っている。整い次第、早急に周知を図る。

全員を
給付型奨学金に

竹内典和議員

今やらなければ、3月の卒業に間に合わない。また、村にとって重要な「人づくり」のため、対象者全員を給付型奨学金に移行すべき。

全員は無理だが
要件の緩和を検討

村長

無条件で希望者全員を対象にすると、大変な財政負担が生じる。全員は無理でも、要件の緩和等を検討したい。

制度の目的は
「人づくり」

竹内典和議員

希望者を全員対象とするのは、最終目標。制度の目的は、あくまでも「人づくり」であること認識してほしい

導入を検討する

村長

どのような形で導入できるか、検討していく。



奨学金制度の拡充が望まれる(平成29年度佐井村保育所入所式)

魅力ある議会づくりへの取り組み 議員報酬の見直しを



提言書を村長へ手交（平成29年8月30日）
（左から）樋口村長、竹内議会改革特別委員長、坂井副議長、竹内議長

佐井村議会・議会改革特別委員会では「魅力ある議会づくり」に関する議論を重ねてきました。「魅力ある議会づくり」には、会社員や各種職業を持つ人、主婦の方々など、様々な階層から意欲ある村民が誰でも議員に立候補できる体制づくりが必要不可欠です。

そのためには、議員報酬について、自営業者だけでなく会社員の方々などが立候補した場合、若い方々の生活に支障が出ない程度の議員報酬月額を確保することが望ましいことから、段階的に改正する必要があるとの意見を集約しました。

よって、次期改選後、新たに議員となる者から報酬月額を平成22年当時と同水準とするべく、佐井村特別職報酬等審議会の開催を求めました。

平成29年第1回臨時会（10月6日）

一般会計に618万5千円を追加

審議した議案

○専決処分した事項の承認

（平成29年度佐井村一般会計補正予算（第4号））

衆議院議員総選挙に要する経費

499万8千円

災害復旧に要する経費（野平地区農道）

118万7千円

○津軽海峡文化館「アルサス」周辺賑わい空間創出整備工事請負契約の締結

契約額 1億3791万6千円

請負業者 株式会社 東北産業（五戸町）

- ・13人乗りエレベーターを新設
- ・2階アナントの一部を改修
- ・地場産品販売施設を新設
- ・観光船団体受付案内所を新設
- ・屋外公衆トイレを新設
- ・しおさい公園に遊具を設置

など



大人も子供も夢中になったヤリイカ釣り
（5月3日 ヤリイカ祭り：アルサス周辺）

東京電力株式会社

「福島第一原子力発電所」視察

派遣議員代表 川畑勲夫

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震、それに伴う大津波により、かつてない状況となった福島第一原子力発電所を視察した。

まず、富岡町の旧エネルギー館で発電施設の状況や構内の説明を受けた。

富岡町は今年4月、避難指示区域が解除されている。

発電所構内では、1人

ずつ線量計を受け取り、構内視察用のバスで移動し、車中からの見学となった。移動中に見える斜面には松などの植物が植えられていたが、現在は刈取られ、モルタルで覆われていた。

海抜35メートルの高台から1号機、3号機、4号機を見ると、それぞれ水素爆発によって建屋上部が破損している様子が分かった。4号機は平成26年12月に全ての使用済み燃料の移送作業が完了している、1号機には燃料デブリが残っている。2号機と3号機には燃料取出し用の建屋を増築している、ということであった。

凍土遮水壁設備の効果は徐々に出てきており、汚染水は減少傾向にある。また、平成32年には2号機の燃料デブリの取り出しが開始される見込みがあるとの説明がされた。

退出時の線量計の値は0.01で、レントゲン検査を受けるより低い値だという。

放射性物質の拡散、地下水の汚染、汚染水の流出を防ぐこと、廃炉に向け一丸となって取り組んでいる姿勢が感じられた。



旧エネルギー館で担当者から説明を受けた
(福島県富岡町)

宮城県牡鹿郡女川町
海とともに ~東日本大震災からの復興~

派遣議員代表 山口捷夫

東日本大震災の際、20メートルを超える津波に襲われ、壊滅的な被害を受けた宮城県女川町の復興の状況を視察した。

まちなか交流館で、語り部ガイドの阿部さんと合流し、バスで町内を巡りながら、当時の様子と復興の状況を伺った。

昭和35年のチリ津波や前日の津波注意報でもさほど被害がなかったため、住民には油断があり、結果として悲劇を招いてしまったそう。

現在も仮設住宅が野球場だった場所に残っている

るが、町の人口は半減したという。

町は、防災対策として防潮堤の建設を検討したが、海が見えなくなるからと住民が反対し、高台移転と住宅用地のかさ上げ工事を行なうこととなった。また、平成24年には「アトム通貨」が導入され、交流人口の増加と復興支援が図られているとの説明を受けた。

震災から6年半が経過した女川町を訪ね、改めて自然の猛威を痛感するとともに、住民の力強さを感じた。



まちなか交流館内には町の模型が設置されている(宮城県女川町)

元気！で働くお年寄りを紹介



大石桂子さん (87歳) 長後
「いつも笑顔で！」

長 後生まれの大石桂子さん。19歳の時に健次郎さん(故人)と結婚し、2男4女に恵まれました。現在は、息子の貴さんと2人で暮らしています。昭和13年、長後で30戸を焼失する大火があり、学校も焼けてしまいました。授業は観音堂で行われていましたが、昭和16年に太平洋戦争が始まると、先生も居ない状態になってしまったといえます。

そのような状況の中で小学校(佐井尋常高等小学校長後分教場)を卒業したため、「当時は中学校もなかったから、何も勉強できなかった。歴史なんかの勉強もしてこなかった」と言いますが、昭和51年度から平成17年度までの29年間保健協力員を務められ、地域の方々へ健康に関する知識を伝えたり、健診の受診を勧めたりする活動を続けてこられました。平成17年には、その功績が認められ、村の表彰も受賞されています。



秋まきの春菊が育っています



冬支度に入ります

だけにしているそうです。長後は海からの風に加え、山からの風も吹きこむ地形のため作物が育ちにくく、菊などの花を植えてもきれいに咲かないのが残念なのだとか。また、近頃は目が悪くなったり、頼まれたりすることもないのでしていませんが、自分や家族の服のほか、頼まれて丹前やかすりの元禄小袖も縫ったことがあるほどの和裁の腕前だそうです。

2か月に1回大間町の病院へ通院し、薬を処方してもらうそうですが、近所の方と一緒にコミュニケーションに乗り、早く終わった時にアルサス内の食堂で昼食をとることは、楽しみの一つだそうです。緒にコミュニケーションに乗り、早く終わった時にアルサス内の食堂で昼食をとることは、楽しみの一つだそうです。

元

気の秘訣は『いつも笑顔でいること』。嫌なことがあってもすぐに忘れるようにする。同年代の女性たちとお茶を飲んだり、近所の人を笑わせたりして楽しく過ごす。育てた花を愛で、気持ちを明るくすること、と教えてくれました。

◇編集後記◇

「さい議会だより」に初めて編集後記を掲載したのが第170号で、今回の第179号で10回目となります。

編集後記により、村のその時々状況も分かるように思いますが、みなさんはどうお感じでしょうか。

今、村は少子高齢化の波の中で、漁師縁組事業やアルサス周辺賑わい空間創出整備事業などにより定住・交流人口の増加を目指しています。

多くの方々から強い要望があったエレベーターが、来春3月にアルサス内に設置される予定です。待ち望んでいたみなさんへ朗報となれば幸いです。

(川畑)

議会広報編集委員会

- 委員長 田中 岩男
- 副委員長 山口 捷夫
- 委員 宮川 尚
- 委員 竹内 典和
- 委員 川畑 勲夫